

■本園における自己評価の取り組み

「保育者のための自己評価チェックリスト」を保育士各自で実施、職員会議にて振り返りを行った。
グループワークでは、自己や園全体の強みや課題について項目別に話し合い、保育の質の向上と、保育士の専門性を高めるための取り組みについて検討した。

■評価対象期間 令和6年4月1日～令和7年1月31日

■対象職員 保育士24名

A. よい B. 一部改善を検討する C.改善を要する

	チェックリスト項目	A	B	C
第1章 保育の基本	1. 保育の基本		○	
	2. 教育及び保育の配慮	○		
	3. 指導計画作成と評価	○		
	4. 特別支援教育・障害児保育			○
	5. 「育みたい3つの資質・能力」「10の姿」		○	
	6. こどもの発達	○		

評価点・課題点・改善点

- 子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人が安心感と信頼感をもって活動し、様々な体験を積み重ねられるよう努めているという点において、全ての保育士がよい評価だった。担当制保育を行う上で子どもの愛着関係の形成に努め、丁寧な保育を行っていることは園の強みである。一方、法令や指針の理解に基づいた保育の実施においては、担任をもたない短時間パート保育士において低い評価だったため、今後園内研修や自己研鑽で理解を深めていく必要がある。
- 障害児保育において、専門知識が少ないため自信がない保育士が多く、結果、保護者との必要な話し合いも不十分であることがわかった。障害のある子もない子互いのよさを感じられる保育が行えるよう、今後職員全体で障害児保育について学ぶ機会をもつと共に、定期的な話し合いと支援計画の充実が図れるよう、専門機関との連携を深めていく。
- 乳児担当の保育士において「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の理解が低い結果となった。「10の姿」を念頭に置いて、一人一人の発達に必要な体験が得られる環境を構成する大切さを理解し援助できるよう、園内研修や子どもの姿を読み取るための対話を重ねていきたい。

	チェックリスト項目	A	B	C
第2章 「ねらい」及び「内容」	1. 乳児保育に関わるねらい及び内容	○		
	2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容	○		
	3. 保育の実施に関わる配慮事項		○	
	4. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容		○	

評価点・課題点・改善点

- 乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育においては、一人一人の生活リズムや発達を考慮しつつ5領域をふまえた保育の個別計画作成と環境構成ができているという評価だった。また、子どもが安心感をもって生活できるように温かく受容することもできているという評価だった。
- 経験の浅い保育士や、短時間パートの保育士、以上児担任の保育士において、「授乳・離乳の支援ガイド」の理解が低いことがわかった。乳児を預かる施設職員として、現在担当外の職員もガイドブックを利用して理解を深めると共に、保護者に対して適切な子育て支援を行えるようにしていきたい。
- 3歳以上児の保育においては、領域別年間計画を作成し、個々の興味・関心を踏まえた保育の展開ができているという評価だったが、5領域の中で「表現」の活動がやや不十分であることがわかった。絵本やお話の世界から表現遊びを行ったり、自由に楽器で表現したりする遊びが行えるよう環境を整え、外部研修などで保育のスキルを上げていきたい。
- 園生活における「きまり」を、大人が子どもに教える機会は多いが、子どもが自ら「きまり」の大切さを感じたり、子ども同士で「きまり」を作ったりする機会が少なかったため、年間計画を見直し、活動のねらいに加えていきたい。

	チェックリスト項目	A	B	C
第3章 健康及び安全	1. 健康支援		○	
	2. 食育	○		
	3. 環境・衛生管理・安全管理			○
	4. 災害への備え	○		

評価点・課題点・改善点

- 食育においては、年間食育計画を作成し、栽培や調理を通して食に関心をもつことや、食材への感謝の気持ちをもつこと、また食べ物と体の関係を知り楽しく食べることなどに十分取り組めているため、よい評価だった。
- 感染症に関する知識が低く、流行時期や疾病状態の把握ができていない保育士が多かった。また、けがの応急処置方法を習得している保育士も少なかったことから、子どもの急な体調不良に対応できるよう、ガイドラインを学んだり実践研修を行ったりして、園全体の安全管理のスキルを上げていきたい。
- 不審者対応マニュアルは作成しているが、状況によってどう対応するかは理解が不十分だった。今後、不審者対応の実践研修や外部研修を行い、理解を深めていきたい。
- 「災害への備え」では、毎月様々な状況を想定した避難訓練を実施し、安全計画やBCPを作成、災害時備蓄品も十分備えていることからよい評価だった。ただ、災害訓練はどれだけやっても十分とは言えないため、常に問題を探し訓練を重ねていきたい。

	チェックリスト項目	A	B	C
第4章 子育て支援	1. 園児の保護者に対する子育て支援		○	
	2. 地域における子育て支援			○

評価点・課題点・改善点

- 「共育て」を園の保育方針としていることから、保護者の考えや提案を積極的に聞くこと、保護者からの相談を一人で解決せず、園全体で受け止めることなどができているという評価が多かった。しかし、保育士の中には、保護者対応が苦手と感じたり、家庭の保育方針と園の保育方針に相違がある時、相手にわかりやすく伝えるスキルがないと感じたりしている者がいた。今後、スキルアップ研修を行うと共に、保育士個人に負担のかからない体制を整えていく。
- 新型コロナウイルス感染症の流行期から、地域交流や子育て講演会などの機会がなくなってしまったため、地域の子育て世帯の把握や子育て相談ができていない。園の規模や保育士不足などからも、園が地域に開かれた場所にするのは容易でないが、一時預かり事業の運営や園庭開放などを広く知らせる手立てはしていきたい。

	チェックリスト項目	A	B	C
第2章 職員の資質向上	1. 内部研修	○		
	2. 外部研修		○	
	3. 自己評価	○		

評価点・課題点・改善点

- 内部研修は年間研修計画を立て、職員会議・以上児部会・未満児部会などで保育の質の向上に努めており概ねよい評価だった。研修内容は、保育士一人一人が専門分野による計画をたて、責任感をもって取り組むことができている。
- 外部研修には、磐田市主催で行われるスキルアップ研修・保幼小研修など、保育士会主催で行われる分野別リーダー研修、視察研修、またキャリアアップ研修などがある。平日の保育を抜けて研修に出るのは人数も限られるため、個々の希望通りには参加できない現実があるが、できるだけ学びたい分野の研修に自ら参加できる体制を作っていきたい。
- 外部研修に参加した際は、職員会議にて研修報告をし、会議に出席しない職員には回覧をして情報共有を行っている。同僚にわかりやすく内容を伝えることもスキルが必要になるため、研修報告を大切にしている。園内外の研修や研究に自ら参加している保育士はほとんどいないという結果だったが、必要なスキルを園内で勤務内に習得できる計画を立てていきたい。
- 「自己評価」は、今回行った「自己評価チェックリスト」の他「人権擁護のためのセルフチェックリスト」「レベルアップシート」などを用いて個々に評価し、グループワークで園全体の振り返りと課題の共有を行っているため、よい結果だった。今後も定期的に評価・振り返り・改善を繰り返し行っていきたい。